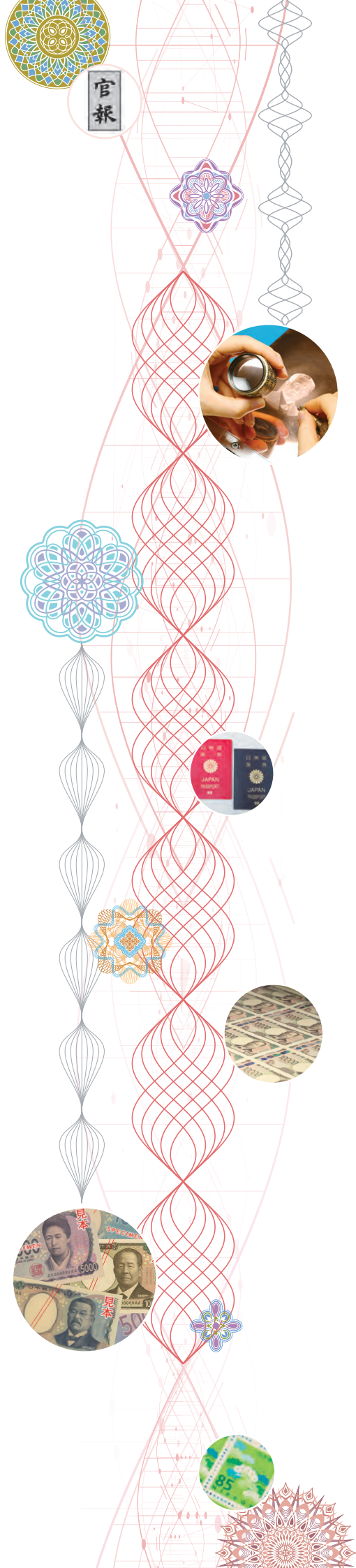




信頼を社会へ、未来へ。

国立印刷局

事業案内

可能性に挑み続ける、確かなものづくり

時代が変わっても、信頼される組織であるために

国立印刷局は、明治4(1871)年の創設以来、日本銀行券、官報、旅券といった国民の皆様の生活に密着した公共性の高い製品等の提供に邁進し、高品質な製品等を安定的に供給してきました。

私たちの事業を取り巻く環境は劇的に変化しつつありますが、国立印刷局の使命が変わることはありません。伝統を守りながら環境変化に柔軟に対応し、止まる

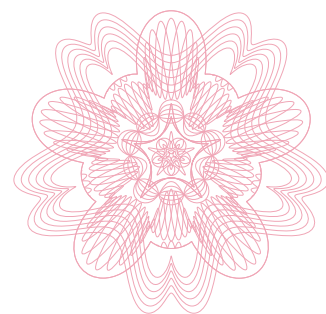


ことなく技術を進化させながら、安定的かつ確実な製品の供給を行うとともに、国民に信頼される製品及び情報サービスを生み出し続けていきます。こうした両面の努力を尽くし、日本の社会、経済の更なる発展と国民生活の安定に貢献していきます。



国立印刷局の使命

社会基盤を支える日本銀行券、官報、旅券などの製品や情報サービスを確実に提供することにより、日本経済の発展と国民生活の安定に貢献する。



主務大臣(所管省庁)
財務大臣(財務省)
内閣総理大臣(デジタル庁)※

日本銀行券 日本銀行

官報 内閣府

旅券 外務省

切手 日本郵便

その他官庁・地方公共団体など

国立印刷局

本局

工場

研究所

東京工場

王子工場

小田原工場

岡山工場

彦根工場

静岡工場

※ 国の公的基礎情報データベース(社会基盤となるデータのデータベース(以下「ベース・レジストリ」という。))に関する業務

日本銀行券と国立印刷局

お札の中央下にある小さな文字をご存じでしょうか。これは「製造銘版」と呼ばれ、私たち国立印刷局が製造している証です。お札は、財務大臣の製造命令に従い、日本の中央銀行である日本銀行の発注に基づき、国立印刷局が製造しています。その歴史は古く、前身である大蔵省紙幣局が、明治10(1877)年に国産第1号紙幣を製造したことに始まります。以来国立印刷局は、用紙から印刷まで一貫して日本のお札をつくり続けています。



業務内容 国立印刷局の業務内容、製品などについてご紹介します。



日本銀行券(お札)

国民経済にとって必要な数量を安定的かつ確実に製造しています。また、日本銀行券に対する国民の皆様の信頼を維持するために必要な情報も提供しています。



官報、予算書・決算書など

国の法令や公示事項を掲載し、国民に周知するための「国の公報」である官報の原稿作成及び官報に掲載された情報を記載した書面(官報掲載事項記載書面)などの印刷に加え、国の予算書・決算書など、公共性の高い印刷物の製造を行っています。



旅券、郵便切手、証券など

高い偽造抵抗力を必要とする旅券(パスポート)、郵便切手、印紙・証紙などについて、徹底した製造管理体制のもとで確実な製造を行い、国民の皆様が安心して使用できる製品を提供しています。



デジタル・ガバメントへの貢献

日本の社会、経済のニーズを踏まえた情報サービスの提供を推進しており、その一例として、官報の確実な提供やベース・レジストリを構成するデータの加工、記録、保存及び提供等に取り組むとともに、行政文書の電子化に向けて協力するなど、デジタル・ガバメントの実現に貢献しています。

国立印刷局の歩み

明治4(1871)年、国立印刷局は大蔵省紙幣司として創設されました。

以来、ものづくりの技術を進化させながら、お札や官報といった暮らしを支える製品等を提供し続けています。

明治4(1871)年7月
大蔵省に「紙幣司」創設
(初代紙幣頭: 渋沢栄一)



明治4(1871)年8月
紙幣司を「紙幣寮」と改称

明治10(1877)年
紙幣寮を「紙幣局」に改称、現業官庁となる

明治11(1878)年
紙幣局を「印刷局」と改称

明治42(1909)年
研究所設置

大正13(1924)年
官制改正により
「内閣印刷局」となる

昭和18(1943)年
大蔵省所管の
「印刷局」となる

昭和24(1949)年
大蔵省外局の
「印刷庁」となる

昭和27(1952)年
大蔵省附属機関の
「大蔵省印刷局」となる

平成13(2001)年
省庁再編に伴い
「財務省印刷局」となる

平成15(2003)年
「独立行政法人
国立印刷局」となる



明治 (1868~1912)

初の印刷局製切手
(現在の普通切手の原型)

明治5(1872)年
桜切手発行



国産第1号紙幣

明治10(1877)年
国立銀行紙幣(新券)
一円券発行



明治16(1883)年
太政官文書局が
官報第1号を創刊



大日本帝国憲法発布
明治22(1889)年
官報号外発行



明治天皇・皇后の結婚
25周年の祝典を記念
して発行された、日本で
最初の記念切手

明治27(1894)年
大婚二十五年祝典
記念切手(明治銀婚
記念切手)発行



大正 (1912~1926)

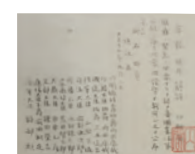
切手の偽造事件が発生
したため、すかしなどの
偽造防止技術が使われ
た切手を発行

大正3(1914)年
普通切手の仕様を
変更(田沢切手)



関東大震災により工場
を失う中、徴発令公布
のため、翌日に官報号
外を緊急発行

大正12(1923)年
手書きガリ版(謄写版)
刷り官報発行



昭和 (1926~1989)

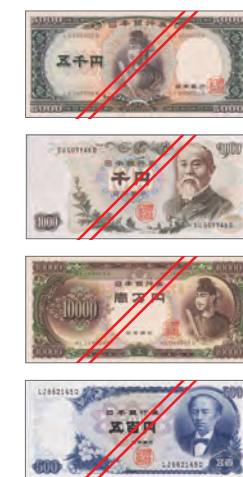
**昭和21(1946)年
~23(1948)年**
日本銀行券(A券)
発行



**昭和25(1950)年
~28(1953)年**
日本銀行券(B券)発行



**昭和32(1957)年
~44(1969)年**
日本銀行券(C券)発行



一万円券、五千円券、
千円券の初となる
3券種同時改刷

昭和59(1984)年
日本銀行券(D券)発行



平成 (1989~2019)

平成11(1999)年
インターネット版官報の配信開始



平成12(2000)年
日本銀行券
(D二千円券)発行



平成13(2001)年
官報情報検索
サービスの開始



平成16(2004)年
日本銀行券(E券)発行



令和 (2019~)

令和2(2020)年
2020年旅券発給



令和7(2025)年
2025年旅券発給



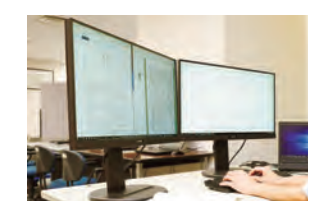
令和6(2024)年
日本銀行券(F券)
発行



官報法制(電子)化



ベース・レジストリに
関する運用業務開始



公共性の高い製品を、信頼の技術で

国立印刷局では、伝統的な技法と巧みな技を駆使し、公共上必要とされる製品を製造しています。

日本銀行券(お札)

一万円券

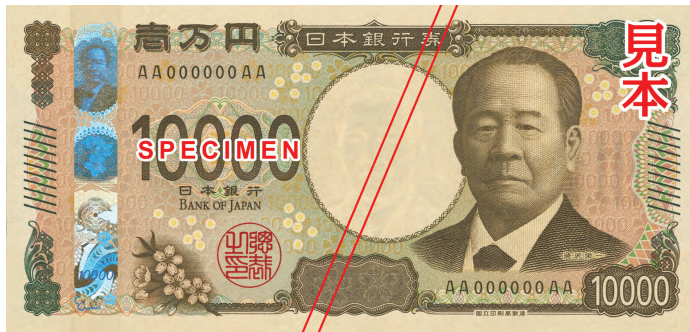


表 面 実業界で活躍した渋沢栄一(しibusawa・えいいち)

裏 面 「赤レンガ駅舎」として親しまれた歴史的建造物(重要文化財)の東京駅(丸の内駅舎)

サ イ ズ 縦76mm×横160mm

五千円券



表 面 近代的な女子高等教育に尽力した津田梅子(つだ・うめこ)

裏 面 古事記や万葉集にも登場し、古くから親しまれている花「フジ(藤)」

サ イ ズ 縦76mm×横156mm

千円券

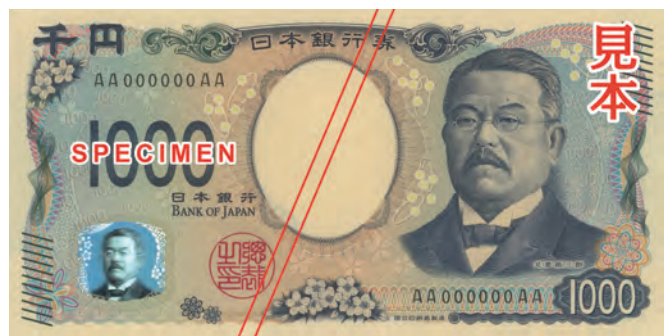


表 面 破傷風血清療法の確立や、北里研究所を創立し後進の育成にも尽力した北里柴三郎(きたさと・しばさぶろう)

裏 面 江戸時代の浮世絵師・葛飾北斎の代表作で世界の芸術家に影響を与えた「富嶽三十六景(神奈川沖浪裏)」

サ イ ズ 縦76mm×横150mm

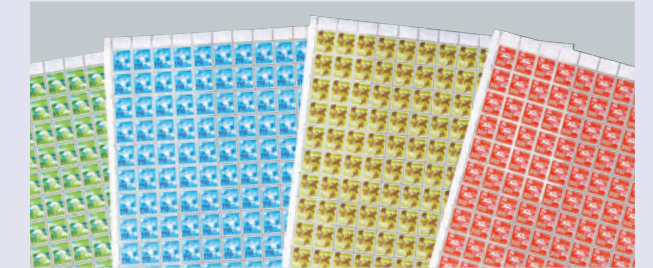
旅券(パスポート)

日本政府が国民の国籍と身元を保証する証明書。外国政府に対して円滑な渡航を要請する公的文書です。顔写真ページにプラスチック基材を用いた「2025年旅券」では、レーザーによる個人情報の印字・印画を国立印刷局において集中的に行います。



郵便切手

グラビア印刷方式で繊細な画線や豊かな濃淡を表現し、「小さな芸術品」と言われています。



印紙・証紙

収入印紙や自動車重量税印紙などの印紙類、地方自治体などで使用している収入証紙にも、国立印刷局の偽造防止技術が使われています。



証明書台紙

容易に真偽判別できることを重視し、様々な技術をバランスよく組み合わせることで、より強固な偽造防止・抑止効果を高めた台紙を提供しています。



お札に息づく伝統と先進の 技

芸術と技術、両方の意味を持つ言葉「ART(アート)」。芸術と技術が高度に融合したお札
伝統技術とデジタル技術の融合で世界に誇るお札を実現したことが認められ、令和7
を受賞し表彰されました。

※ 人事院総裁賞は、国民全体の奉仕者として、長年にわたる地道な活動や高いモチベーションの下での勇気ある行動などを通じ、行政

は、まさに「ART」と呼ぶにふさわしい存在です。

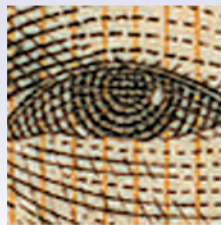
(2025)年2月に、職域部門として、「独立行政法人国立印刷局工芸部門」が人事院総裁賞※

サービスや国民生活の向上に顕著な功績を挙げ、国民の期待に応えた国家公務員(個人又は職域)を顕彰するものです。

1 卓越技巧とテクノロジーで「ART」を実現

匠の技が光る、緻密な肖像

お札の肖像は、工芸官という専門の
職員が手彫りで彫刻しています。その
画線は、1ミリの幅に10本以上の線を
彫れるほどの緻密さ。考え抜かれた
画線で陰影や質感をいかに表現
するかが工芸官の腕の見せ所です。



和紙の伝統技術を受け継ぐ

伝統的な和紙の技術「すき
入れ」がベースである「白黒
すかし」。この技術は、明治以来
受け継がれ、そのシャープさ、
繊細な陰影表現で世界的
にも高く評価されています。



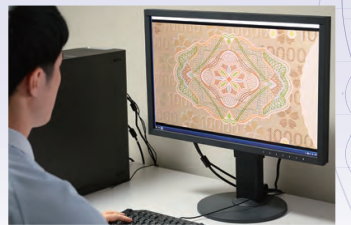
西洋の技術を、独自に進化

明治期に外国人技術者によ
って伝えられた彫刻技術は、現
在も独自に進化しています。彫
刻した線の深さや幅、向きによ
り立体的に表現しています。



伝統とデジタル技術が融合

コンピュータでいくつもの
データを組み合わせて作成
された彩紋(さいもん)模様
が、最終的に伝統的な彫刻
画線と融合することでお札
のデザインが完成します。

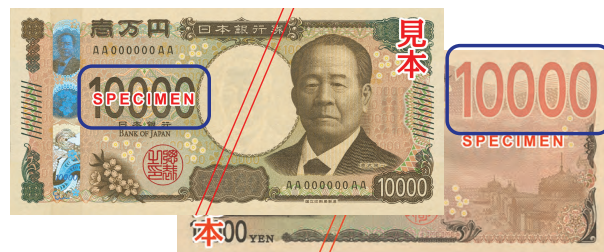


2 多くの人が使いやすいユニバーサルデザイン

年齢や国籍、障がいの有無にかかわらず、多くの人が公平に、使いやすいお札を目指したデザインとなってい

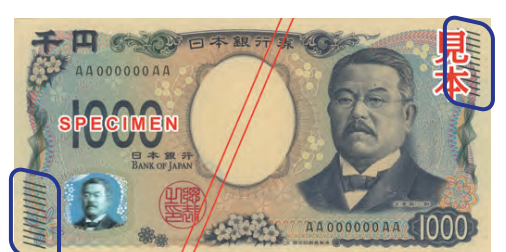
額面数字の大型化

表裏にある数字を大きくすることによって、額面数字がわかり
やすくなっています。



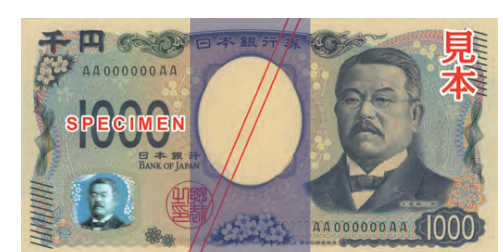
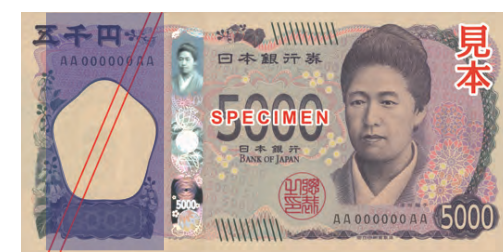
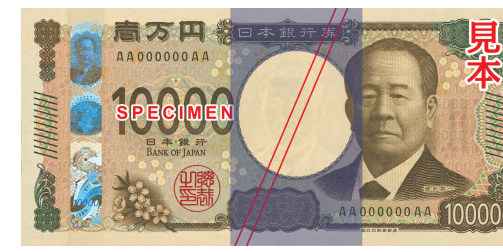
識別マーク

指感性に優れた形状(11本の斜線)に統一しています。券種ごと
に位置を変えることで、券種が識別しやすくなっています。



すき入れ

券種ごとに異なる形状・位置に配置し、券種の違いがわかり
やすくなっています。



美術品・工芸品

伝統的な工芸技術を駆使して、高い品位と風格が感じ
られる数々の美術品や工芸品を生み出しています。



凹版画



郵便創業150年切手帳
通常版切手シート(シール式)
(令和3(2021)年発行)



すき入れ美術紙



グリーティングカード

グリーティングカードは、
国際親善の場において
使用されました。

お札識別アプリ「言う吉くん」

国立印刷局は、目の不自由な方のために、お札識別
アプリ「言う吉くん」(iOS版)の無料配信を行って
います。このアプリは、お札にカメラをかざすと、券種を
識別して音声と大きな文字で料額をお知らせします。



*真偽判別機能はありません。

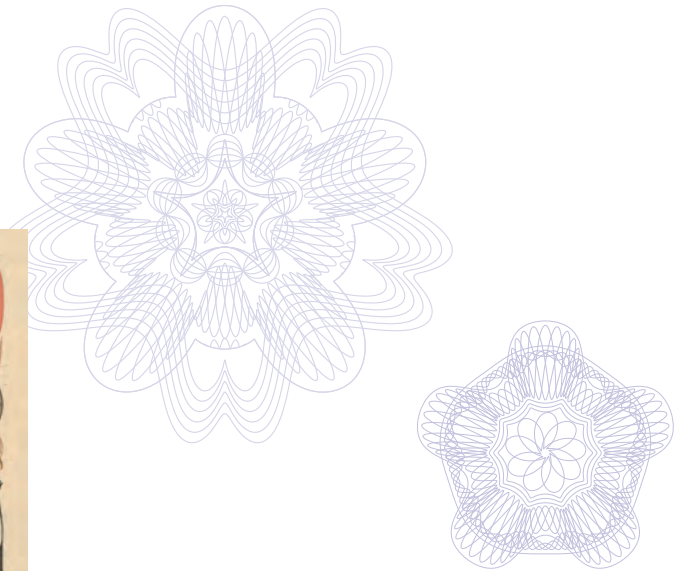
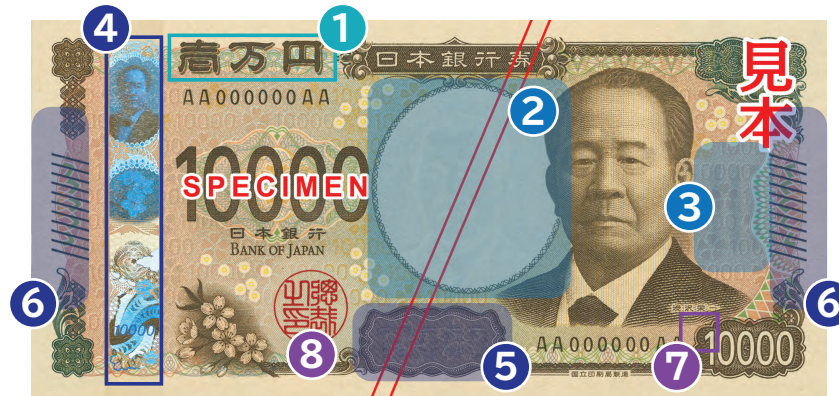
※iOSは米国その他の国や地域におけるCiscoの商標または登録商標であり、
ライセンス許諾を受けて使用されています。

社会の安定を支える偽造防止技術

お札は、偽造されにくいことはもちろん、我が国の流通に適した特性が求められます。社会や経済の安定を維持し、その信頼を守りぬくために。世界に誇るお札の偽造防止技術

の向上に向け、不断の努力を重ねています。

1 お札に採用されている代表的な技術



1 深凹版印刷

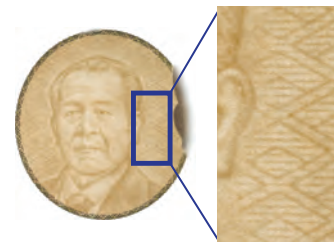
お札の肖像などの主な図柄は、インキが盛り上がる凹版印刷という印刷方式が使われていて、触るとざらざらした感じがあります。金額の表記や識別マークなど、特にインキを高く盛り上げた印刷を深凹版印刷と呼んでいます。



触 ってわかる

2 すき入れ・高精細すき入れ

肖像のすき入れに加え、その周囲に緻密に構成された連続模様（高精細すき入れ）が施されています。



透 かしてわかる

3 すき入れバーパターン

用紙に棒状のすき入れを施したもので、透かして見ると、一万円券は3本、五千円券は2本、千円券は1本の縦棒が見えます。



透 かしてわかる

4 3Dホログラム

お札を左右に傾けると三次元の肖像が回転して見える技術で、お札への採用は世界初。肖像以外の図柄も見る角度によって変化します。



傾 けてわかる

5 潜像模様

傾けることで、表面には「10000」や「5000」の額面数字が、裏面には「NIPPON」の文字が浮かび上がります。



傾 けてわかる

6 パールインキ

傾けると、お札の左右両端の中央部にピンク色の光沢が現れます。



傾 けてわかる

7 マイクロ文字

カラーコピー機では再現が困難な、微小な「NIPPONGINKO」という文字が印刷されています。



道具 でわかる

8 特殊発光インキ

紫外線を当てると、表面の印章（総裁之印）や表裏面の模様の一部が発光します。



道具 でわかる

2 偽造防止への徹底した対応



みつまた

アバカ

お札の特殊な用紙

日本のお札の用紙は、みつまたやアバカ（マニラ麻）などを原料としています。みつまたは、古くから和紙の原料として利用され、明治12（1879）年からお札の原料として採用されています。お札は人々の手から手へ渡り、機械に通され、折り畳まれ、時には水に濡れることもあります。そのため、耐久性が求められます。また、偽造を困難にすることも重要です。お札の独特な色合いや風合い、触れた時の感触が偽造防止に役立ちます。

お札の表面にあるアルファベットと数字の組合せ

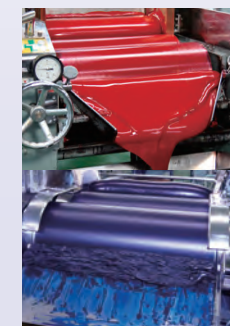
お札の表面の左上と右下にあるアルファベットと数字の組合せを、「記番号」といいます。お札の背番号のようなもので、同じ種類のお札には、全て違う記番号が印刷されています。



※D券、E券では、異なる色で同じ記番号のお札があります。

お札の色

現在発行されているお札は、全部で約20種類の色が使われています。明るい原色を使うと、カラーコピー機やスキャナで近い色を再現されるおそれがあるため、あえて再現が難しい複雑で独特な色にしています。



高品質で均質な製品を供給する ための、一貫した製造プロセス

一貫した製造体制によって、つくり出される日本のお札。お札ができるまでの工程をご紹介します。

1 原図・原版作製



原図は、工芸官が色鉛筆や絵の具を使って精緻に描きます。これをもとに、金属板にビュランという特殊な彫刻刀で点や線を一本一本手彫りで彫刻し、原版を作製します。この作業には高度な技術と芸術的センスが要求されます。また、お札の背景を彩る彩紋模様などは、最新のコンピュータシステムを使ってデザインします。

2 製版



1枚の原版をもとに、多面の大きな印刷用版面を作製します。印刷時の耐久性を向上させるため、版面にはメッキを施し、堅牢に仕上げます。

3 インキ製造



印刷に使用するインキは、各種顔料とワニスなどを独自の配合で練り合わせて製造します。偽造を防ぐため、独特な色合いと、優れた機能を併せ持っています。

4 製紙



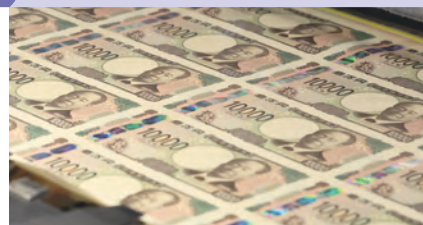
原料を細かく刻み、水の中で繊維を解きほぐします。よくすりつぶし絡みやすくした上で、薬品などと混ぜ合わせ、紙の材料（紙料）をつくります。これを網の上に薄く流して紙の層をつくり、精巧なすき入れを施した後、乾燥させて巻き取ります。そして、印刷に適した大きさ（大判用紙）に断裁します。こうしてできた紙は、お札独特の風合いとともに耐久性があり、現金取扱機器などでの機械処理にも適しています。

5 印刷



国立印刷局が開発した印刷機で、裏面、表面の順に図柄を印刷します。1台の印刷機でオフセット印刷と凹版印刷を連続で行うことで、細かい模様を高い精度で印刷することができます。

ホログラム貼付



左右に傾けると肖像が回転して見える3Dホログラムや、見る角度によって色や模様に変化して見えるホログラムを専用の貼付機で貼り付けます。

記番号印刷



表裏の模様を検査した後、表面に日本銀行総裁の印章と、アルファベットと数字の組合せである記番号を印刷します。

6 検査・仕上

断裁



断裁機で、お札を決められた大きさに正確に切り分けます。

検査・仕上



断裁されたお札を、機械で1枚ずつ検査し、数量確認と帯かけを行い、1000枚ずつの束に仕上げます。

封包



封包機でフィルム封包した後、日本銀行に納入します。

業務改善活動

国立印刷局における業務改善活動は、作業方法の見直し等を通じて、品質の安定化、作業負荷の軽減及び作業効率の向上等を図る個人やサークルによる取組です。明治4年の国立印刷局創設当初より、職員の地道な取組が脈々と受け継がれており、歴史と伝統のある活動となっています。



信頼をつなぐ、未来創造

研究所では、時代の変化に対応した製品やお札の信頼確保を支える技術の研究開発を推進。明るい未来を実現する新たな価値創造に挑戦しています。

1 安心と便利を形にする研究開発

社会や国民生活のニーズに対応していくための新たな価値創造に挑戦します。

デジタル印刷機



デジタル印刷は、版面を使わないことで環境に配慮できるだけでなく、デジタル技術を最大限に活かした高度な偽造防止技術の付与を可能にします。研究所では実用化に向けて研究を進めています。

証明書発行システム



社会のデジタル化によって、カラー複合機などを用いて出力した印刷物はデジタル情報を補完する役割となりつつあります。研究所では、新たな時代を見据えた証明書発行システムの研究を進めています。

2 国立印刷局製品の信頼を支える研究開発

最新機器による多角的な分析や検査を実施し、偽造抵抗力の高い製品の提供に寄与しています。

イオンミリング



紙や印刷物などの構造を損傷することなく断面加工を行う装置です。

レオメーター・粘着性測定装置

新しく開発したインキが、印刷機で適切に印刷できるかを確認する装置です。



レオメーター
インキの柔らかさを測定します。

微量成分分析システム



有機化合物の詳細な構造を解析できる装置です。

粘着性測定装置



印刷後のインキの粘着性を評価します。

3 社会に貢献する技術開発

これまで築き上げてきた信頼と技術力をさらに積み重ね、公共性の高い製品のセキュリティを確保する技術を開発してきました。各種証明書などに付与する偽造防止技術に関してはライセンスなどを供与し、社会貢献につなげる取組を進めています。

👁️ 見るだけで真偽判別できる技術 🔍 道具を使って真偽判別できる技術

- | | | | | |
|---|-------------|--|----------------------------------|--|
| ① | 斜めに見ると | | ① ラインビュー LineView | 正面から見ると規則正しい線が見えるだけですが、斜めから見ると、別の模様が現れる技術です。この模様は、コピー機やプリンターでは再現できません。また、パソコンなどを利用した偽造に有効な対策となります。 |
| ② | 角度を変えて見ると | | ② メタリックビュー MetallicView | 見る角度を変えることにより、光沢差を利用して模様が現れる技術です。コピー機やプリンターではこのような再現はできません。印刷物を傾けて見るだけで効果が確認できるので、真偽判別のために特別な道具も一切ありません。 |
| ③ | ルーペなどで拡大すると | | ③ 特殊形状スクリーン SpecialScreen | 特殊な形状の網点により、模様を表現する技術です。ルーペなどで拡大することにより、特殊な形状の網点を確認できますが、コピー機で再現することはできません。 |
| ④ | 透明シートを重ねると | | ④ イメージリプル ImageRipple | 印刷物に特殊な透明シートを重ね合わせると、見えていた模様が別の模様になる技術です。透明シートの重ね合わせ方に応じて、異なる模様を出すことも可能です。これによって、誰でも簡単に真偽判別ができます。 |
| ⑤ | コピー機で複写すると | | ⑤ コピーチェック CopyCheck | コピー機で複写すると、目では見えにくかった文字や図形が現れたり、まったく別の模様が現れたりする技術で、複写防止策として高い効果を備えています。 |
| ⑥ | 赤外線当てると | | ⑥ イメージスイッチ ImageSwitch | 赤外線を当てて画像を見ると、まったく見えていなかった文字や図形などの隠し画像が現れる技術です。 |

※商標「LineView」「MetallicView」「ImageRipple」「ImageSwitch」は独立行政法人国立印刷局の登録商標です。

スマホアプリ

印刷局スマートフォン判別具

国立印刷局の潜像技術を可視化するアプリです。

※AndroidはGoogle LLCの商標です。
※iOSは米国その他の国や地域におけるCiscoの商標または登録商標であり、ライセンス許諾を受けて使用されています。



Android™版



iOS版



国民と政府を、信頼でつなぐ官報

国の法令や公示事項を掲載し、国民に周知するための「国の公報」である官報は、明治16発行しています。官報は、昭和22(1947)年5月の日本国憲法施行以来、法令の公布手段である「法律」が制定され、これに伴い、創刊以来紙の印刷物として発行されていた官報は電子化されま

(1883)年に太政官文書局から創刊されました。現在では、内閣府が行政機関の休日を除き毎日る制定法上の根拠を失っていましたが、令和7(2025)年4月1日施行の「官報の発行に関する法した。に関する広報に努め、国政上の重要事項を正確かつ確実に伝達・提供することに貢献しています。

1 官報情報の配信

官報は、内閣府の官報発行サイトに掲載されています^{※1}。国立印刷局が提供する会員制の「官報情報検索サービス」(以下「検索サービス」という。)では、日付やキーワードを指定することで、昭和22(1947)年5月3日(日本国憲法施行日)以降直近までのデータから、必要な情報を検索し、閲覧することができます^{※2}。



官報(内閣府の官報発行サイト)

官報情報検索サービス(会員制有料)

※1 90日経過後は、プライバシーへの配慮が必要な記事を除いて閲覧・ダウンロード可能
※2 プライバシーへの配慮が必要な記事などキーワード検索不可の記事あり

2 官報ができるまで

① 入稿  各府省庁などが記事を入稿します。	② 編集  記事をもとに体裁を整え、官報の原稿を作成します。	③ 配信  内閣府が官報を発行し、国立印刷局が検索サービスを提供します。	④ 印刷  官報掲載事項記載書面などを印刷し全国へ送ります。
--	--	---	--

国会製品 国の予算書・決算書など、公共性の高い行政情報などが収録された製品を製造しています。



予算書・決算書



国会用製品

3 官報の種別と構成する記事

官報には、国や各府省庁が国民に広く知らせるために発表する公文や公告、会社法による法定公告などの記事が掲載されています。

本紙	行政機関の休日を除き毎日一回発行されます。
号外	本紙に掲載されなかった事項が掲載されます。
号外国会議録	衆議院又は参議院の会議録が掲載されます。
号外政府調達公告	政府機関等が調達する一定金額以上の物品または役務の入札公告等が掲載されます。
特別号外	緊急の必要があると内閣総理大臣が認める場合に発行されます。

公文

政府や各府省庁などが公布又は公示する文書

(令和7年4月1日時点)

- 法律・政令・条約
国家の決定事項や外国との間の決定事項
- 内閣官房令／府令・省令／規則／告示
各府省庁の決定事項
- 国会事項
国会に関する事項
- 人事異動
大臣や各府省庁などの人事異動
- 叙位・叙勲・褒賞
国に貢献した人物などに授与、位などの公表
- 官庁報告
最低賃金や国家試験などに関する事項

公告

国や各府省庁、特殊法人、地方公共団体などからの告知

(令和7年4月1日時点)

- 入札公告・落札公示／官庁公告
競争入札に関する告知
- 裁判所公告／特殊法人など
法律で公告が義務付けられている内容
(高速道路の料金の変更や、国家資格の登録者など)
- 地方公共団体
教育職員の免許の失効や墓地の改葬、行旅死亡人の告知など
- 会社その他
決算公告など

行政文書の電子化 各府省庁などが保有する機密性の高い行政文書の電子化にも取り組んでいます。



社会的責務を果たし、伝統と信頼を守る

国立印刷局では、地球環境に配慮し、環境と調和の取れた事業活動を遂行しています。また、職務に対する自覚と誇りを持ち、コンプライアンスを実践しています。

1 コンプライアンスへの取組

職員一人一人が、自らコンプライアンスを率先して実践するという強い意識を持ち、国民の皆様の信頼と期待に応えていきます。

基本方針

- 国立印刷局は、全ての活動の原点を社会的な信頼に置き、コンプライアンスの確保を経営上の最重要事項の一つと位置付けて取り組むこととする。
- 役職員は、自ら率先して国立印刷局におけるコンプライアンスを実践する。

2 環境への取組

基本理念

私たちは、日本銀行券、官報、旅券などの製品や情報サービスを確実に提供する公的な事業体として、全ての段階において環境と調和の取れた事業活動を行います。

環境行動指針

基本理念を実現するため、環境マネジメントシステムを構築・運用し、次の事項を重点的に実施します。

- 環境法規制の遵守
- 温室効果ガス排出量の削減
- 資源使用量の抑制及び廃棄物の減量
- 環境負荷に配慮した製品や情報サービスの提供
- 環境保全に関する啓発活動の推進

温室効果ガス排出量削減に向けた取組

政府の定める地球温暖化対策計画（令和7（2025）年2月18日閣議決定）における、2040年度までの温室効果ガス排出量の削減目標に基づき、着実に温室効果ガス排出量を削減するための基本計画を定め、各種取組を実施しています。

国立印刷局における温室効果ガス排出量削減のための基本計画はこちらからご覧いただけます



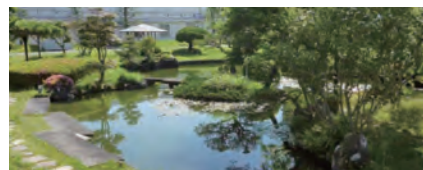
環境保全の取組例



屋上緑化



太陽光発電設備



生物多様性保護区域(静岡工場)

環境に関する広報活動

私たちは公的な事業体としての説明責任を果たすため、地球環境保全に関する取組について、毎年度、実績及び活動内容を取りまとめた環境報告書を作成し公表しています。

環境報告書はこちらからご覧いただけます



3 安全への取組

国立印刷局における無災害記録証授与工場

国立印刷局では、安全で安心して働ける職場環境を実現するため、安全活動に積極的に取り組んでいます。その取組の結果、彦根工場・静岡工場・小田原工場では、厚生労働省から無災害記録証が授与されました。無災害記録証とは、一定期間災害を発生させることのなかった事業場に対して授与されるものです。

受賞歴

彦根工場

令和3(2021)年8月
第4種無災害記録証
(1320万時間)



静岡工場

令和5(2023)年6月
第1種無災害記録証
(390万時間)



小田原工場

令和6(2024)年9月
第1種無災害記録証
(390万時間)



安全への取組内容は
こちらからご覧いただけます



4 地域・社会への貢献

国立印刷局の工芸官による 美術大学での特別講義

国立印刷局では、工芸官による特別講義を開催し、印刷技術についての概要や銅版画の技法を中心に、お札の製造における工芸官の卓越技巧について講義しています。学生たちの将来のキャリアについて可能性と選択肢を広める機会となる他、長年培ってきた工芸官の高い技術を国民の皆様に知っていただくことを目的とした、社会貢献活動の一環でもあります。この取組は、日本の文化芸術の振興に寄与した功績が認められ、令和7(2025)年1月に、「文化庁長官特別表彰」を受賞しました。



地域との連携

地域貢献活動のひとつとして、自治体などと協定を結び、地元でのイベント協力や地域の観光振興にも寄与しています。

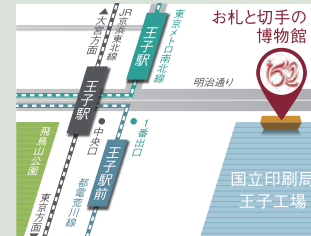


お札と切手の博物館 BANKNOTE & POSTAGE STAMP MUSEUM

お札と切手の博物館では、国立印刷局が製造してきた歴代のお札や切手の他、明治期以前のお札、諸外国のお札や切手、お札の製造と深いかわりのある銅版画など、多彩な資料を展示しています。そこには社会、経済、文化、技術の移り変わりが反映されており、歴史とともに歩んできたお札や切手の、知られざる側面を学ぶことができます。



アクセス
JR京浜東北線
王子駅 徒歩3分(中央口)
東京メトロ南北線
王子駅 徒歩3分(1番出口)
都電荒川線(東京さくらトラム)
王子駅前 徒歩3分



ご利用案内
開館時間 9時30分～17時00分
休館日 月曜日(祝日の場合は開館、翌平日休館)
年末年始・臨時休館日
住所 〒114-0002 東京都北区王子1-6-1
入館料 無料
電話 03-5390-5194

国立印刷局 お札と切手の博物館





国立印刷局・おれに関すること

本局総務部 総務課 広報官室 03-3587-4210

官報に関すること

官報について
本局官報部 03-3587-4294

官報情報検索サービスについて
本局官報部 03-3587-4321

官報公告の掲載/官報の掲載内容について
最寄りの官報サービスセンターに直接お問合せください

職員録に関すること

本局官報部 03-3587-4977

ライセンス技術に関すること

本局銀行券部 知的財産管理グループ 03-3587-4334

入札・資格審査などに関すること

本局財務部 契約課 契約総括係 03-3587-4317

情報公開・個人情報保護窓口

本局総務部 総務課 法務係 03-3587-4201

〒105-8445 東京都港区虎ノ門2-2-3 虎ノ門アルセアタワー
<https://www.npb.go.jp>

国立印刷局 検索

2025.4 更新



- 本冊子は、グリーン購入法に基づく基本方針の判断の基準を満たす用紙及びインキを使用しています。
- リサイクル適正A:印刷用の紙へリサイクルできます。

©National Printing Bureau 2024